

第1回地域生活移行推進民間提案事業評価委員会の結果（概要）

日時 令和5年8月22日（火）9：30～12：00

場所 神奈川県庁東庁舎112会議室、113会議室

議題1 委員長、副委員長の選任

委員の互選により委員長に在原委員を選任し、在原委員長の指名により副委員長に黒須委員を選任。

議題2 会議の公開、非公開について

議題のうち、提案法人によるプレゼンテーション及び質疑応答については公開とし、提案事業の評価等については非公開と決定。

議題3 令和5年度地域生活移行推進民間提案事業の評価について

(1) 提案法人によるプレゼンテーション

社会福祉法人常成福祉会（以下「常成福祉会」）から、提案事業についてプレゼンテーションを実施。

【質疑応答】

（黒須副委員長）

スケジュールに令和7年度に地域生活支援拠点の整備とあるが、地域生活支援拠点自体は国の事業メニューだと思うが、別途補助を受けて法人として別枠で整備するのか。

（常成福祉会）

地域生活支援拠点自体は、補助はないと承知している。

秦野市は地域生活支援拠点を既に持っているのですが、秦野市の指定の拠点というわけではなく、独自で活動させていただく。

既存の地域生活支援拠点には基幹相談支援センターが入っているので、そちらとは密な関係で連携を取ってきていることから、法人として地域生活支援拠点を整備した際には、相互に協力しながら事業を展開していきたい。

（黒須副委員長）

行政の補助ではなく法人が独自に地域生活支援拠点という名称の事業所を立ち上げるということで、今回の補助金とは別枠で整備するということか。

（常成福祉会）

そのとおり。

(黒須副委員長)

感想的なところが入るが、県の補助事業としてインパクトある事業の中身が求められていると思うが、柱建ての主なところがグループホームの連絡会というところで、グループホームの色々な悩みや課題がいっぱいあるのですごく大事なことだと思うが、今回は地域移行というところがメインテーマなので、それをどう具体的に進めていくかというスキームが重要であり、3年間話合いで終わって、充実した連絡会だったということにはなると思うが、15人というアウトプットを出すためにも連絡会の位置づけがややわかりにくい。

また、地域移行ワーカーはどういった位置づけの方なのか。

(常成福祉会)

ワーカーについては、今年度から県の障害サービス課で事業を始めたもので、入所施設に1人、サービス責任管理者などがワーカーとして、県から委託を受ける。圏域にも1人、圏域のワーカーとなって、圏域のとりまとめをする役割を担うもの。

その圏域のワーカーとつながって、意見交換の場をしっかりとって情報交換をしていきたい。

入所施設のワーカーの方々は地域のグループホームのことはそんなには詳しくはなく、これまで相談事業所が入ってきたが、グループホームの様々な特徴や得手不得手があるので、そうしたものを一元的にまとめてワーカーにも活用していただいて、どんどん繋げていけるのではないかと考えている。

(黒須副委員長)

地域移行には送り出す側のマンパワーが非常に大事になるので、県の取組みのワーカーがつくのであれば、そうした方とも連携しながら進めてほしい。

(富田委員)

地域生活支援拠点の設置について、体験の場とあるが、地域生活の体験、自立生活型の居室と、就労体験とあるが、就労継続支援B型との違いは何か。

(常成福祉会)

自立型居室の体験は、グループホームの中に特別な部屋を用意して、アパートで一人暮らしする練習をする場を考えている。

就労Bの方はお仕事体験、お仕事をしたいけど、その手前にいる方々にお仕事に近い環境で体験してもらうことを想定している。

今回は新しく就労継続支援事業所を立ち上げたいと考えており、その企画も練っているところ。

(富田委員)

地域生活移行ワーカーとの連携によるネットワーク構築とはなにか。

(常成福祉会)

今年から入所施設で、地域生活移行を進めるワーカーが置かれ始めた。

まだすべての施設で置かれているかは分からないが、そうした方が地域のグループホームやアパートなどで住めるように調整する役割のようだが、入所施設での支援には長けていると思うが、まだ地域の情報には詳しくはないだろうということで、私たちがグループホーム連絡会を圏域全体で一つにまとめて、情報を集めてワーカーさんたちに、こういったところがあるよとか、ここはこういった方の支援が得意だよとか、グループホームによってサービスがバラバラのようなのでそうしたところも伝えていければと考えている。

(富田委員)

あんまり一人暮らしというのはないのか。

(常成福祉会)

一人暮らしがないわけではないが、重度の方など、一回グループホームを挟んで、自信をつけて挑戦するという方も多い。私たちが練習の場ということで、グループホームが最後というわけではなく、その先にアパートでの生活へと移った方の実践報告なども発信しなければいけないと考えているし、それは地域移行ワーカーさんとも一緒にできることかなと考えている。

(富田委員)

練習をすることができると慌てなくてすむので練習は大事だと思います。

(事務局)

先ほどあった地域移行ワーカーは、今年度から神奈川県独自の事業として、スペシャリストやエキスパートという言い方をしているが、病院だとメディカルソーシャルワーカーがいて、退院の調整をしてくれる方がいるが、入所施設にはそうした役割が明確に位置づけられた方がいない。県として地域移行を積極的に推進するための中核的な人材を配置していただければ、加算をするという事業を始めているものです。

これは県所管の施設のため、政令・中核市は対象外となっています。

(内藤委員)

対象となっている障害者は、知的障害ということか。精神なども全部か。

(常成福祉会)

すべてを対象としている。障害種別で分かれているところが多かったが、日中サービス支援型は基本的には障害問わずとしたりしている。新しめのところは身体の方はできないが知的・精神の方はできるということもあるが、それもよくわからない現状がある。なので、一覧を作ってグループホームの売りや得意なところがはっきりわかるようにまずは初年度していきたい。

(内藤委員)

地元でなかなかどのグループホームがどんな人を受け入れてもらえるのか分からないという方がたくさんいるので、ぜひそのあたりは整理していただくとありがたい。

(在原委員長)

事業の柱の1つの「グループホーム連絡会の設置」についてだが、グループホームの質もバラバラだということが顕著になってきていて、それを底上げしていくような体制づくりを目指していると思う。今回の事業費の用途計画はほとんど人件費であり、「つなぐ、調整する、協働する」ということを、いかに実際、実効力のある形でやっていっていかれるかが問われる。受け皿という言葉は好きではないが、受け止めたり、迎えにあって、一緒に地域で暮らそうって言えるようなグループホームを増やしていくことがいかにできるかというのが、一番難しい。パッと答えがあるわけではないが、試行錯誤しながら、少なくとも三年後にモデルができるといい。

その先に、事業計画の2番目の柱の「入所施設との繋がり」を作って、住み替えたり、施設に戻ったりしながら暮らしを安定させながらやっていく枠組みができると良い。事業計画の3つの事業の柱が1・2・3としっかりあるので、いかに実効性ある形でできるかが問われていく。まだ答えがないところもけっこうあるので、手探りでいくのかと思うので、みんなで応援していきたいと思います。

(常成福祉会)

各市に相談をしているところだが、ある市からは日中サービス支援型のグループホームに行動障害のある方の支援について期待していたが、うまくいっていないという話が出ている。サービスの資源が潤沢ではないので、グループホームにはこれから先も期待しており、どう成長してもらえるか真剣に考えなければならないし、圏域でやるなら一緒に考えようと言っている。

さらに打合せしていく中では、一人だけでもモデル事例のような形でグループホームで集中的に支援できるよう方を市も介入して、できれば専門機関にも協力依頼をしてコンサルで入ってもらって、一人うまくいった事例をまず作ることから目指したいという話になっている。まずは連絡会を圏域で作るといふことの合意が得られれば、そちらの方も進んでいくと思う。

社会福祉法人宝安寺社会事業部（以下「宝安寺社会事業部」）から、提案事業についてプレゼンテーションを実施。

【質疑応答】

（富田委員）

目指す方向性で、丁寧な意思決定支援はすごい良いことだと思う。例えば話の難しい方でもちゃんと考えを持っている。この人は無理とかっていう職員がいるが、決して無理ってことは言わないほうがいい。やってみないと分からない。それからもう一点、県西地区における障害者支援の将来像、これは良いこと。こういったことはぜひ実現してほしい。

（宝安寺社会事業部）

小田原では共生社会に向けてケアタウン構想という取り組みが根付いている。12の中学校区、それぞれの地域で独自の様々な取り組みが生み出され、生活に困り感のある方々も生き生きと暮らせるようにという、共生社会づくりがある。宝安寺社会事業部も市社協や地域包括支援センター、民生・児童委員などとともに町づくり委員会に複数地区関わっているので、障害者の方々が地域で暮らしたときによりよい生活ができるようにということで、多様な方々の居場所づくりや地域のネットワークづくりも一緒にやっていきたいと思います。

（富田委員）

地域で暮らすには、まず挨拶が大事。今日、おはようございます。といのが。そうすると、みなさん良くしてくる。

（黒須副委員長）

入所施設の役割の見直し入所施設の今後の役割について、施設レベルだけではなく、県のリーダーシップのもとに、入所施設は終の場じゃない、有期限ということ、社会につながっていく支援をしていくことをはっきり訴え出すという意味でこの事業が役割を担ってもらえるといい。

質問のところだが、グループホームに移りやすい方が移っている。強度行動障害の方や重度の発達障害だとか、高齢の方など、地域移行なのか介護サービスに繋いでいくのかといところで、高齢重度の方への対応が、障害施設が高齢重度化に対応するということが第二特養になってしまうという瀬戸際。その中で、本来の障害者施設としての方向にもっていくのは大事なこと。そういう意味で、今いる高齢の方を介護サービスに繋いでいく、あるいはグループホームに行けば費用の問題もあるので、地域なり他のサービスなりに繋いでいくコーディネーターが必要だと思うが、今回どのように考えているかというところが1点。

もう1点がご家族の理解をどう進めていくか、そのあたりの方向性を2点目として聞きたい。

(宝安寺社会事業部)

高齢化に関しては、既に高齢の施設に移っている方が何人かいる。また、小田原の方で、高齢者施設が共生型短期入所として、障害者を積極的に受け入れている施設がある。この施設に勉強会をやろうと提案をしている。知的障害の方が高齢化しても、知的障害独特のこだわりやてんかん発作などがあるので、どういった特徴や違いがあるのかを勉強会をやろうよということで投げかけている。高齢だからすぐ介護施設というわけではなく、その人たち一人ひとりがどういった生活が必要なのかということを検証していきたい。

2番目の家族については難しい問題。県西地区の4つの入所施設のうち3法人がグループホームを作ったり、地域移行を積極的に取り組んできている結果、終の棲家という考え方がだいぶ薄れてきている。その人、その人の自己実現をさせたいという気持ちに移行している。宝安寺社会事業部は2棟あるが、地域移行を念頭に置いたグループホームをまだ設置していません。入所施設のご家族は、せつかく施設に入ったんだからという意識が高いのが現状です。利用者さんの望む姿、望む生活というのを丁寧に説明するしかないかなと思っている。

尚、宝安寺社会事業部としても既存のグループホームが老朽化しているため、移転と合わせて地域移行の受け皿になるグループホームを令和7年度中に整備する方向で計画している。

(在原委員長)

入所施設の機能の見直しの中で評価入所という言葉にインパクトがある。評価という言葉のもつニュアンスがあると思うが、評価入所と意思決定支援との兼ね合い、融合、というところがどうなっていくのか。同時に重度で高齢化した方が残されていくような懸念が繋がって、評価という言葉だと力のある方が出ていけるというような見え方がするのでは、というような気がするがどうか。

(宝安寺社会事業部)

評価というと上から目線の感じがしなくもないが、いい言葉が思いつかなかった。横浜市の事業所で発達障害の方達の短期入所で、在宅のサービスを結びつけながら、いったん短期入所で受けながら、在宅生活に結び付けるという取り組みをしている事業所がある。根本的には本人の希望があり、それをもとにしながらどうしたら実現できるか、どんなサービスが必要かを、既存のサービスだけではなく、我々中間である支援者がこういうサービスも欲しいと行政に訴えかけていく役割も必要だと思っている。一緒になって実現できればと考えているが、いい言葉が出てこなかった。

(在原委員長)

本人の持っている力もあるが、その人の希望を叶えるために、社会環境を評価して、作り出して、つなげていくということの全体が大切だと思うが、誤解の生じないネーミングがあれば。

(黒須副委員長)

評価はアセスメントということだと思う。その人に何ができて何ができないのか、ご家族や本人がどう思っているのかそういった情報収集をしっかりとやるということが入り口で、その人にあった支援を組み立てていく先に地域移行がある。間違った支援に行かないように、施設にいる間に本人の意向を踏まえて、支援のパッケージを組み立てて、その支援のパッケージをそのまま地域のグループホームなどに移していくことで、支援の仕組みが変わらないので、本人が抵抗なく地域に生活の場を移していける、いい取組だと思う。

(在原委員長)

2つ目の柱の「グループホームとの連携」にあるコンサルテーションの実施は、障害者支援施設の支援力をもって、コンサルテーションするということか。

(宝安寺社会事業部)

実際にあったのですが、行動障害の方を受け入れたグループホームからSOSが入った。そうしたときに、自閉症の方の支援に長けた施設の職員がコンサルテーションをしにいった事例がある。

いろんなグループホームがあって、いろんな困難を抱えていると思うが、SOSを出してもらえれば、こちらから行けるという人材は県西にもいるし、そうした職員を育成していくことも大事だと思います。そうしたニーズに応えた形の事例検討やって、あるいは研修をやってとしていきたい。

研修については今年度中に6本考えている。それは世話人の初級的なところから作って、7年度までには相当数の動画を作れると思う。

(在原委員長)

研修全体は技術をもって進めていかれると思う。特に、入り込んでいって立て直すことのコンサルテーションに力を発揮していただけたらと思うが、現状の制度上は部分的にしかできないが、今回の補助金を活用して、そうしたコンサルテーションの人件費にも充てる想定ですか。

(宝安寺社会事業部)

そのように考えている。

(在原委員長)

事業が終わった後も継続していける仕組みとして、実績を作って、いかに有効かを伝えていければ制度になっていくかもしれない。

(宝安寺社会事業部)

立て直しというとおこがましいようにも思うが、一緒に改善できればと考えている。そうすると育った人材がノウハウを身に着けて、それを実践できて、自分の施設にも展開できて、グループホームの方にも入ってきていただいて新しい風が入るとなればWIN-WINになると考えている。

(内藤委員)

前向きな提案でとてもいいと思います。

(富田委員)

決して慌てずにやってほしい。

(在原委員長)

15人の地域移行にこだわって慌ててはいけないということですね。

議題3(2) 採点等

提案法人によるプレゼンテーションと質疑応答を踏まえて、提案事業の採点等を実施。

(以上)